

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名:部署名:

黄色の箇所を入力して、提出してください。

【スローガン】 毎日楽しい学校 【めざす学校像】 児童が感動し、児童の期待に応える学校 【学校の使命】 児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり 児童の確かな学力の育成、学力の向上

【教育目標】 よく学び 思いやりのある行動をする たくましい子 【今年度重点目標】 自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

基本事項	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組（4月）	取組目標（達成・未達成の状況）	評価指標（達成・未達成の状況）	指標の結果	分析（成果と課題）	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実（学力向上プランと連動）	基礎学力の向上	朝学習（オビタイム）の推進	毎朝15分のオビタイムにおいて、漢字前倒し及び反復学習・音読・百ます計算（毎日）	12月学年別「熟読」テスト 平均正答率70%以上（3月80%） 保護者アンケート 学校は、基礎基本の定着に向けて取り組んでいる 90%以上			
	自律的に学ぶ力の育成	五常小検定の実施	漢字、百ます計算、音読・暗唱のマイスター認定制度の運用（2学期より）	段位獲得児童 のべ400名 児童アンケート 家で自分で計画を立てて学習している 85%以上			
	自己決定できる子ども主体の学びの実現	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。（※複線化及び自由進度学習）	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業			
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実（体力向上プラン・道徳教育全体計画等と連動）	いじめ不適切事案が起きにくい風土の醸成	ルールメイキングとぶれない生徒指導	総合の学習で6年生と学校のルールをつくるとともに、そのルールに基づき自律心を育てる課題予防的生徒指導を行う。（通年）	児童アンケート 先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる 90%以上 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている 80%以上	（食育の6つの視点） ・食事の重要性・食事の喜び・楽しさを理解する。（食の重要性） ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとりかたを理解し、自ら管理していく能力を身につける。（心身の健康） ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。（食品を選択する能力） ・食べ物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をもう。（感謝の心） ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける（社会性） ・各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。（食文化）		
	食育の推進	「食育の6つ視点」を指導	給食時間を中心に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動をはじめ、教育活動全体を通じ、「食育の6つ視点」を指導していく。また、食物アレルギーや、障がい、個人の身体状況などを考慮し、個に応じた対応を入れていく。	児童アンケート 「配膳されたものを残さず食べられた。」 70%以上			
教職員の資質と指導力の向上	児童との時間を生み出す働き方改革の推進	超勤時間の管理 業務の精選 業務改善チームの稼働	教職員個別の時間外勤務時間を見える化する。 教職員のボトムアップで細かい業務の精選と削減を行う。 効率的な評価のありかたの検討と休み方改革の試行実施。	平均超勤時間の削減 昨対 1H/月・人 ストレスチェック指標の良化 教員アンケート 校長は業務改善を回り働き方改革を行っている 86%以上 教職員は業務改善を意識して働いている 90%以上			
	自己決定できる子ども主体の学びの実現（再掲）	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。（※複線化及び自由進度学習）	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業			
学びのセーフティネットの構築	いじめの未然防止や早期対処の仕組みづくり	いじめ対策委員会含む組織の機能改善	市の方針改定を踏まえるとともに、保護者等が具体的に現在のいじめの課題を認識できるよう「基本方針」を改定する。 いじめ発生時の聞き取り、記録、検討、対処、連携確認が迅速かつスムーズに行われるよう、生徒指導の校内体制を刷新する。	児童アンケート 学校が楽しい 90%以上 先生は困った時にいつでも相談に乗ってくれる 90%以上			
	非常災害時の危機管理	非常時に真に役立つ訓練へと改善	改定した危機管理マニュアルを遵守するとともにガイドラインに沿って適宜見直す。警察・消防等に指導を受けるなど各種非常時訓練を真に役立つものに改善し、保護者にも周知する。	保護者アンケート 非常災害時に備え適切に安全教育を行っている 90%以上			
	児童の居場所の確保	コミュニティスクールによる子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	校内に不登校や学校・学級に入りづらい子どものためのプロジェクト「子どもたちの新しい居場所」をコミュニティスクールの取り組みとして週一回以上実施する。税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。	新たな不登校児童を2名以下に抑える。			
（学校独自の取組） 家庭・学校・地域の連携	学校情報を積極的に発信	学校情報を毎日積極的に発信	学校の経営方針、学校評価、ブログ、学校だより等で学校情報を毎日積極的に発信する。	ブログアクセス数 350件以上／稼業日（家庭数約390） 保護者アンケート 学校の様子がよくわかる。 90%以上 保護者アンケート 学校の方針や教育の重点が明確である。 90%以上 総アクセス数 8万4000件／年			
	保護者ニーズを踏まえた学校経営	校長へ直接意見する仕組みの運用 重要案件への保護者の参画	校長へ直接意見を届ける仕組み等により保護者意見を汲み取って実現する。また、学校の考え方や改善状況を学校だより等で報告する。 重要案件について保護者意見を踏まえて成案とする。（通年）	保護者アンケート 保護者ニーズを踏まえた学校経営を行っている。90%以上			
	児童の居場所の確保（再掲）	コミュニティスクールによる子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	昨年開設した子ども食堂を月2回に増やし、子どもの居場所にするともに、平日に開催することにより、主に孤立しがちな共働きの保護者同士のネットワークづくりを支援する。新たに税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。（通年・毎日）	保護者アンケート 学校は保護者・地域のニーズを踏まえた運営を行っている。 90%以上			

学校関係者評価（学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による）年度末

評価結果

改善に向けた支援策